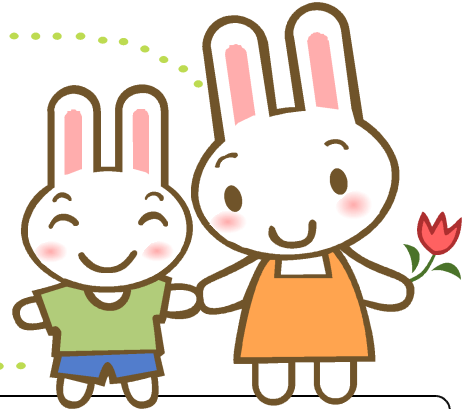




ぐんま 幼児教育センターだより

第21号



将来の根っ子づくり

群馬県教育委員会委員長 坂本 壽枝

60年近く昔のことですが、私の幼稚園での記憶は、「幼稚園の裏山の細道を家に向かって走った記憶」「園庭の灯籠の陰で一人で泥団子を作って遊んだ記憶」です。悲しいことに、友達や先生と楽しく遊んだ記憶がないのです。

私は、小さい頃から家族以外の人とのかかわりをほとんどもたない子でした。性格的にもおとなしく内向的で、社会性に欠けた子であったようです。そんな子が、突然家族から切り離され、一人で幼稚園という大きな社会に放り出されたのです。私は、家族の元に戻りたい一心で山道の怖さも忘れ幼稚園から逃げ帰ったのです。それも一度や二度でなく何度も。また、人とかかわり方も未熟なうえ、コミュニケーション力もなく、友達になじめずいつもひとりぼっちで遊んでいたようです。今は亡き母が「その姿を見るにつけかわいそうだった」とよく話してくれたものです。



さて、幼稚園や保育所等に入園するという事は、「初めて家族以外の人と深くかかわる場」をもつことであると考えます。自分を愛し守ってくれる大きな存在である家族から離れる子どもの不安は、想像以上のものです。それだけに、先生方が子ども一人一人の気持ちに寄り添ったあたたかい声がけや愛情あふれる対応をしてくださることは、子どもにとっても親にとっても、大変有り難いことだと思います。子どもが先生方への強い信頼感をもつことで自分の居場所を見つけ、そこから園生活がスタートするからです。もちろん現在の先生は、私のような子どもがいれば、すぐに生育歴や生まれ育った環境を理解したうえで目配り気配りをし、少しの変化も見逃さず適切な指導をしてくださると思います。ですから、私のような記憶をもつ子どもはいないとは思いますが。

とにかく、幼児期は人格形成の基礎となる大変重要な時期です。先生方には常に、子どもたちの将来の根っ子を作っているんだという強い意識をもち、目の前の子どもたちを最大限大きく成長させてほしいと願っています。家族と同じように、いや家族以上に愛し慈しんで育てられた子どもたちは、将来必ず大きな花を咲かせてくれると思います。先生方には、子どもたちのために、毎日笑顔で生き生きと頑張っていたいただきたいと思います。

平成26年度「夕やけ保育研修会」より

幼児期と小学校の接続期の教育を考える ～アプローチカリキュラム～

今年度の「夕やけ保育研修会」は、桐生、長野原、富岡、沼田、前橋の5会場で「幼児期と小学校の接続期の教育を考える～アプローチカリキュラム～」をテーマに開催し、106名の先生方に御参加いただきました。研修会の内容を紹介させていただきます。



1 幼児期の教育と小学校教育

幼児期の教育と小学校教育には、子どもの発達段階による違いがあります。その一方で、子ども一人一人の発達や学びは、幼児期から小学校期にかけて連続していることから、幼児期の教育との連続性・一貫性を確保する必要があります。

このようなことを踏まえ、幼小接続を円滑に行うために、幼児期の教育と小学校の教育の違いと連続性・一貫性の調和を図ることが求められます。

(1) 幼児期の教育と小学校教育の違い

未分化な発達状況が見られる幼児期は、遊ぶことを中心とする具体的な活動や体験を通して思考し、認識力や社会性の基盤を育てています。

発達が進むにつれて、言葉や数などによる抽象的な思考が可能になり、認識力や社会性の育ちが見られるようになります。

そのような発達の特性から、幼児期の教育と小学校教育には右のような違いがあります。

	幼児期の教育	小学校教育
目標	方向目標 (その後の教育の方向付け) 「～～を味わうようになる」 「～～を感じるようになる」	到達目標・達成目標 「～～ができるようになる」 「～～が分かる」
教育課程	経験カリキュラム (生活や経験を重視)	教科カリキュラム (学問体系の獲得を重視)
内容	5領域を総合的に	各教科、道徳、特別活動
指導方法	間接教育 環境を通して行う 遊びを通じた総合的な指導	直接教育 各教科等から構成される時間割 に基づく学級単位の集団指導
学び	無自覚な学び(学びの芽生え)	自覚した学び(学習)

(2) 幼児期の教育と小学校教育の「連続性・一貫性」

教育基本法や学校教育法における幼児期の教育と小学校教育の目的には「学びの基礎力の育成」という共通性があり、両者の連続性・一貫性が見られます。学びの基礎力の育成のためには、「幼児が人やものに興味をもち、かかわる中で様々なことに気付くこと」「それらを深め広げる過程の中で、自己発揮と自己抑制を調整する力を育むこと」「それらを通じて、個人として、また、社会の構成員としての自立への基礎を養うこと」が重要となります。

具体的には、幼児期において、「学びの自立」「生活上の自立」「精神的な自立」の3つの自立を養うことが大切で、これは、小学校低学年の教科「生活科」の目標にも通じています。

3つの自立のそれぞれの内容は次のとおりです。

学びの自立	自分にとって興味・関心があり、価値があると感じられる活動を自ら進んで行うとともに、人の話などをよく聞いて、それを参考にして自分の考えを深め、自分の思いや考えなどを適切な方法で表現すること
生活上の自立	生活上必要な習慣や技能を身に付けて、身近な人々社会及び自然と適切にかかわり、自らよりよい生活を創り出していくこと
精神的な自立	自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもつことによって、現在及び将来における自分自身の在り方に夢や希望をもち、前向きに生活していくこと

2 幼児期の教育で育む3つの自立

幼児期に育てるべき3つの自立をしっかりと育み、小学校に送り出したいものです。下の表を参考にして、3つの自立の視点から、自園のこどもの姿を見直してみましょう。

学びの基礎力		修了時まで育てたい幼児の姿（例）	チェック
学びの自立	学ぶ力	○身近な事物や事象に、興味や関心をもち、遊びや生活に取り入れる。	
		○自然の素材や自然現象を遊びに取り入れたり自然の不思議さを感じたりする。	
		○試したり工夫したりしながら活動や遊びに取り組む。	
		○遊びの中で、物の性質や仕組みについて考えたり気付いたりする。	
		○季節の変化を感じたり、変化に応じて生活や遊びを変えたりする。	
		○身体の諸部位を十分に動かして遊ぶ。	
		○遊びを通して、文字や標識、数などに興味をもち、その役割や便利さに気付く。	
		○絵本や物語などに親しみ興味をもって聞いたり、言葉による表現を楽しんだりする。	
		○生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり作ったり、演じて遊んだりする。	
		○遊びや生活の中で目標をもって挑戦したり、最後までやり遂げたりする。	
生活上の自立	生活力を	○自分の身体を大切にすることをし、健康や清潔、安全のために自分でできることをする。	
		○衣服の着脱、食事、排泄、所持品の管理や片付けなど自分のことを自分でする。	
		○してよいことと悪いことの区別などを考えて行動する。	
		○きまりが必要なことがわかり、守ろうとする。	
		○生活の流れを予測して、時間を意識しながら見通しをもって生活する。	
	○みんなで使う物を大事に使う。		
	人とのかかわる力	○自分の気持ちや経験を相手に分かるように言葉で伝える。	
		○人の話を最後まで聞き、理解したり、行動に移したりする。	
		○相手の話の内容を聞いて分かったり、自分の思いや考えなどを相手に話したりなどして、言葉を通して人と心を通わせる。	
		○友だちや周りの人の気持ちを理解し、思いやりをもって接する。	
○共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして実現に向けて友達と一緒に活動する。			
○相手の気持ちや思い・考えなどを感じながら行動する。			
○自分の気持ちを調整して、友達と折り合いを付ける。			
精神的自立	心の育ち	○困難なことにつまずいても気持ちを切り替えて乗り越えようとする気持ちをもつ。	
		○自分の力で最後までやり遂げた満足感や達成感をもつ。	
		○自分が役に立つ喜びを感じる。	
		○自分のよさに気づき、自信や意欲をもつ。	
		○自分や相手が相互に必要な存在であることを感じる。	

※幼児期の教育は遊びを通して総合的に指導するので、幼児の姿を明確に3つの自立に分けることはできませんが、一番近いと考えられる自立としての区分に入れてあります。

3 教育課程の修正

小学校との接続を意識した「アプローチカリキュラム」の作成が求められています。一番大切なことは、幼児期に育てるべき力を子どもがしっかりと身に付けているかどうかです。次の手順でアプローチカリキュラムの作成に取りかきましょう。

- ① 3つの自立（「学びの自立」「生活上の自立」「精神的な自立」）の視点から自園の「子どもの姿」を見直します。
- ② ①でとらえた「子どもの姿」を基に、3つの自立の視点から今ある自園の教育課程（長期の指導計画）を見直します。
- ③ **3つの自立を育めるように、教育課程の修正をします。**
これが、アプローチカリキュラムとなります。

3つの自立をしっかりと養い、小学校に引き継ぎたいものです。

また、幼児期に育てるべき力をしっかりと育てられる計画ができていて、教育・保育のよさの引き継ぎができ、園の教育・保育の質の向上にもつながります。

参考文献

「幼児期の教育と小学校の円滑な接続の在り方について（報告）」（平成22年11月11日）
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議編

群馬県総合教育センター

平成26年度ぐんま教育フェスタ

平成27年2月7日(土) 9:00~15:30
群馬県総合教育センター

テーマ 未来へ はばたけ ぐんまの子ども

<幼児教育 絵本の展示と紹介、おはなし>

- 絵本の展示と紹介(9:30~15:30)
乳幼児にふさわしい絵本を150冊を展示・紹介します。
その場で手にとって絵本の世界に触れることができます。
- 絵本についてのおはなし(13:00~14:00)
演題「豊かな心をはぐくむ絵本の魅力」
講師 元明和学園短期大学教授
田子 文子 氏

皆様のご来場を、
お待ちしております。



<教育研修員研究発表>

- 群馬県内の先生が教育研修員として取り組んできた研究成果の発表や展示があります。
幼児教育関係では、次の2名が研究に取り組んでいます。
- 「高齢者との関わりを楽しむ幼児の育成
~訪問に『ふれあい遊び』と『お話タイム』を取り入れて~」
特別研修員 酒井 芽久美(伊勢崎市立第一幼稚園)
 - 「小学校入学への期待を高める幼児の育成
~小学校教諭と一緒に遊ぶ活動を通して~」
特別研修員 高柳 恵美子(伊勢崎市立あずま幼稚園)



<学力向上推進講座>

- 基調説明 9:30~ 9:45
- 講演 9:45~11:15
演題 「ともに学ぶ授業の創造」
講師 群馬大学教育学部教授
江森 英世 氏

<英語教育改革講座>

- 外国語活動模擬授業 12:20~12:50
- 基調提案 13:00~13:30
- 拠点校実践発表 13:30~14:00
- 講演 14:15~15:30
演題 「これからの外国語教育の在り方
-『英語教育の在り方に関する有識者会議』報告をもとに-

講師 文部科学省教科調査官
直山 木綿子 氏

<参加者体験>

- 世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」についての特別講演
- 特別支援教育・情報教育 ほか

※ 詳しくは、センターのWebサイトをご覧ください。http://www.nc.center.gsn.ed.jp

群馬県総合教育センター 幼児教育センター

電話：0270-26-9203
FAX：0270-26-9222
住所：伊勢崎市今泉町一丁目233-2
e-mail:youji-edu@gsn.ed.jp

